

# FISHIN'GRAPH

フィッシンググラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

## ②進化するライトヤリイカ サバにも強い電動ライト直結

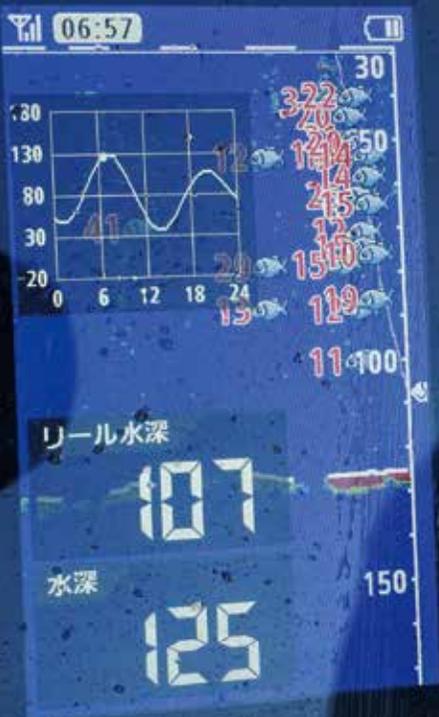
◎とみどころ じゅん シマノインストラクター。ティップエンジニア、メタルステータゲーム、ライトヤリイカのほかタチウオなど、船のライトゲーム「楽しむ釣り」の最先端に行く。

沖イカ好況に沸く関東の海で、例年との一番大きな違いがサバの多さ。ヤリイカで賑わう茨城ではサバの回遊次第で釣果が上下、着底すればイカが乗るだけに、船長はサバの群れを避けるべく四苦八苦している。  
そんな状況だからライトヤリイカは諦めざるを得ないかと思いきや、イカ先生・富所潤さんはむしろ逆と言う。「ツノ数4〜5本の電動ライト直結であれば、慣れない方でもサバに悩まされずに楽しむことができると思います」  
2月下旬の茨城県南部、カンネコの水深125メートル。探見丸のモニターにはサバラしき反応がビッシリと映し出されている。

「私の道糸はタナトル8の0.8号、オモリは100号です。ツノ5本のライトな直結仕掛けは抵抗が少ない分、ノーマルタックルのオモリ150号に遅れることはほとんどありません」  
フォースマスター20Dの探見丸スケールが示す水深とほぼ同じ120メートル過ぎで着底。リアランサーマルイカ73-145で波を吸収しつつ、ていねいに誘い始める富所さん。  
「ただし、事前にライトタックルで同船可能か、その場合のオモリ号数などを必ず確認しなくてはなりません。でも、ルールといえばそれぐらいです」  
富所さんをはじめ船上では7人が電動ライト直結。サバに捕まらないため

ビッシリと映し出されたサバの反応の中を直結仕掛けは突き進んでいく

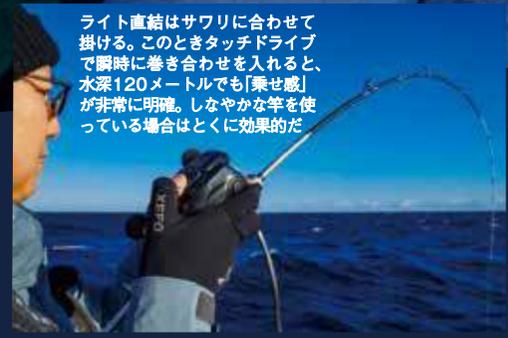
SHIMANO



富所さんのさんライト直結仕掛けはブラツノ11センチ5本、幹系5号、枝間120センチ。ツノは14センチでもいい



**【フォースマスター 201DH】**  
 ◎手巻きリール並みのパーミング性とギア比、軽快さと、最新機能をあわせ持つコンパクト電動。水深を気にすることなくライトゲームを楽しむことを可能にする。左ハンドルの201、201DH、右ハンドルの200のラインナップ。  
 ◎SPEC ギア比=8.2 最大ドラッグ力=5.0kg 自重=385g 糸巻重PE(タナトル) =0.8号-270m、1号-220m、1.5号-150m 最大巻上長=66cm/ハンドル1回転 ハンドル長=55mm シマノ巻上力=27kg 実用巻上持久力=3kg 最大巻上速度195m/分



▶探見丸スケールにより水深と海底の起伏を見ることができ ※探見丸搭載船で使用可能

ライト直結はサワリに合わせて掛ける。このときタッチドライブで瞬時に巻き合わせを入れると、水深120メートルでも「乗せ感」が非常に明確。しなやかな竿を使っている場合はとくに効果的だ



▲パーミング性がよくサミングも楽。スピードクラッチによりワンタッチで底を切ることができる

▲設定した速度で瞬時に巻き上げられるタッチドライブ。ヤリイカの巻き上げ、巻き合わせには中間速22がおすす

— 電動ライト直結の一番大切なこと！ —



◎仕掛けを下げずにたぐることは案外だれでもできる。壁になるのが竿を置きながらたぐるまでの一手目だ



▲リールとグリップを持ったまま竿を立てて仕掛けをつかみに行くバラシやすい



- ①仕掛けを巻き上げたらグリップの前を持ち
- ②竿を引くと簡単に仕掛けをつかむことができる
- ③仕掛けをつかんだら持ち上げながら竿を置き（キーパーには掛けない）
- ④ゆっくりでいいから止めずたぐる。このとき海面を覗き込むと仕掛けが下がってバレル



**【リアランサーマルイカ 73 145】**  
 ◎フロントトリガー搭載。最先端のマルイカシーンに対応するニューロッド。穂先にはしなやかで繊細かつ高感度のタフテックαを採用。ブランクスはスパイラルXコアによりネジレ、ツブレに強く、曲がり込みながらもコントロールしやすい。ライトヤリイカには8：2調子の82S160もマッチする。

失敗を恐れずに。慌てず、マイペースで楽しもう



サワリと引き、そして取り込みのドキドキ感を味わって上げた1杯のヤリイカ

複雑なオマツリもなく快適なイカ釣りとなる。だが、身切れしやすいヤリイカで、しかも波のある茨城の海で、直結仕掛けは難しいのでは？  
 「それが逆なのです。直結仕掛けが難しいのはツノ数が多いとき。ツノ数4〜5本なら、最初の一手さえたぐれば、実質的に残りは2〜3本で、意外にバレません。しかもブランコ仕掛けより断然絡みにくいので、イカ釣り初心者や、船に弱い人でも扱えます。ヤリイカが濃く、ライトも可能な茨城は、直結仕掛け入門に向いていると思いま



直結仕掛けは均一な速度と力加減でたぐるのが理想

す。」  
 やや高めのタナではスルメ、底周辺ではヤリイカと着実に数をのばす富所さん。とはいえツノ数が少ないから、1杯、2杯ずつ釣ることになる。

「これがもしノーマルタックルでツノ数の多い仕掛けなら、もっとイカの数を付けたいと思うでしょう。逆に、手巻きリールのライトだったら巻き上げがつかいかもかもしれません。でも、コ

ンパクト電動リール・フォースマスター201であれば、釣っている感覚と軽さは手巻きのライトタックル、巻き上げはノーマルと変わらない電動ですから、水深100メートル以上で1杯ずつでも、

実に楽しいんです」

つまり、電動ライト直結は、電動と手巻きのいいとこ取りの、数にこだわらない沖イカゲームだ。  
 「サバが多いとき、直結仕掛けは扱えないと諦めている人は、ぜひ、電動ライト直結を試してください。乗りもハッキリ伝わってきて、面白いですよ！」

コンパクト電動リールとライトゲームロッドの組み合わせは、イカ釣り入門の可能性も広げられるのである。